

「出題の意図」・「解答例」

選抜区分	2025年度（選抜区分：学校推薦型選抜） 経済学部（科目名：小論文）
出題の意図・解答例 （評価のポイント）	今年度の学校推薦型選抜小論文では、亀田達也著『モラルの起源——実験社会科学からの問い』から一部を抜粋して課題文としました。この課題文は、集団的意思決定のうち集合知という観点から、ヒトと社会性昆虫であるハチとの違いを説明し、ヒトは「情報カスケード」によるエラーの連鎖を起こしやすい動物であるという点を指摘している箇所です。読解のためには、ヒトとハチを対比させながら、それぞれの集団的意思決定場面での行動とその結果について、論理的に解釈する必要があります。 設問 1 は課題文の内容を十分に理解した上で、制限された字数内で簡潔に要約する力を試す設問です。設問 2 は、課題文の中で展開されている論理を理解し、推論することが求められます。設問 3 は、課題文の内容を踏まえたうえで、自身の考えを文章で論理的に表現する力を試す設問です。 設問 1. リストラの研究によると、ミツバチのコロニーでの巣探し行動において集合知が見られるのは、ミツバチのどのような行動の仕組みによるものであるか。250 字以内で説明しなさい。 解答例 ミツバチは巣探しの際に、自分が見つけた候補地について、8 の字ダンスによって、ほかのハチに情報を伝達する。このダンスで熱心に長く宣伝される巣の候補地ほど、多くのハチたちが訪問しやすくなる。ただし、ほかのハチに同調してある候補地を訪れても、訪問先の質が良くないと判断した場合、そのハチは帰還後に熱心に宣伝を行わない。このようなミツバチのコロニーでの巣探し行動では、集合知が生じるための 2 つの条件である「行動の同調」と「評価の独立性」がうまく組み合わされており、集合知が生み出されている。(241 字) この設問に対して適切に解答するためには、ミツバチのコロニーでの巣探し行動の仕組みが、本文で説明されている集合知が生じるための 2 つの条件（「行動の同調」と「評価の独立性」）を満たしていることを説明しなければなりません。 設問 2. 本文中の下線部(1)とあるように、著者は、サルガニクらの実験では、ヒトのグループが「本当に良い物」を選ぶ上で集合知を発揮することができなかったと考えている。サルガニクらの実験にお

いて、ヒトのグループが集合知を発揮することができなかった理由について、本文に即して推論し、250字以内で論じなさい。

解答例

サルガニクらの実験における社会条件では、ダウンロードするかどうかの決定にあたって、それぞれの曲のこれまでのダウンロード回数と平均評価という社会情報が利用できた。人々はどのような曲をダウンロードするかについて、社会情報をもとに、自分より前に実験に参加した人たちの選択をコピーするかたちで意思決定を行いやすい。このため「行動の同調」は強く働く一方で、「自分の耳」による「評価の独立性」が保たれず、「情報カスケード」によるエラーの連鎖を防ぐことができなかったことが理由であると考えられる。(241字)

課題文では、ヒトのグループが集合知を発揮できない場面の例として、「ほかの人の行動を情報源として優先して、それがつぎつぎと全体に広がっていく」という「情報カスケード」によるエラーの連鎖を挙げています。このことを踏まえた上で、設問2に対して適切に解答するためには、サルガニクらの実験結果を集合知が生じるための2つの条件、すなわち「行動の同調」と「評価の独立性」の観点から検討しなければなりません。その上で「評価の独立性」が保たれる仕組みがないことに言及していなければなりません。

設問3. あなたの知る集合知を発揮できなかった事例を挙げ、なぜ集合知を発揮できなかったのか、またどうすれば集合知を発揮できたのかについて、本文を踏まえ、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

解答例

私は写真部に所属している。入部当初、私たち1年生は、どのようなカメラを買うべきか悩んでいた。そこで、私はある先輩に相談したところ、1つのカメラを勧めてくれたので、深く考えずにそのカメラを購入した。また、それを知った他の1年生も次々に同調し、私と同じカメラを購入した。しかし、しばらくそのカメラを使ってみると、撮れた写真の雰囲気や画質などに不満をもつ人がでてきた。これは「情報カスケード」によるエラーの連鎖であったのかもしれない。もし、私たちが独立の評価を行っていれば、これを回避できただろう。たとえば、何人かの先輩からおすすめのカメラを借りてきて、それらのカメラで同じ被写体を撮影し、誰のすすめかを伏せた状態で、部員がそれぞれの写真を比較し、評価し合う機会がつくられていれば、集合知を発揮できたと考える。(357字)

課題文では、集合知を発揮できない場面の例として「情報カスケード」

によるエラーの連鎖を挙げています。この現象は「行動の同調」が強く働く中で、「評価の独立性」が十分に満たされないときにおきるとして説明されています。したがって、設問 3 に対して適切に解答するためには、まずは上記のような「情報カスケード」によるエラーの連鎖が原因として考えられる「ヒトが集合知を発揮できなかった場面」の具体例を、自身の経験や知識などを参考にして想起し、説明しなければなりません。また「なぜ集合知を発揮できなかったのか」について、具体例における「情報カスケード」によるエラーの連鎖を防げなかった原因を説明しなければなりません。さらに「どうすれば集合知を発揮できたのか」について、「なぜ集合知を発揮できなかったのか」の原因に対応する工夫などを説明しなければなりません。

課題文は、ハチのコロニーでの巣探し行動とサルガニクらのインターネット実験結果の比較考察による著者の見解です。よって別の論理的解釈があるかもしれません。唯一の解答はなく、課題文と整合的な範囲で多様な解答が許容されます。設問に対して適切に論じていること、自身の考え方を適切に表現していることが大事です。